

～MICE産業の振興は「地域と共に成長」の実践がカギ～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
大江 敏彦

釜山広域市において、様々な経済活性化に係る施策が行われていますが、コンベンション誘致についても、先進的かつ大規模に取り組んでいます。釜山を代表する世界的コンベンション施設であるBEXCOにおけるこの1年間のMICEへの取り組みの概況と今後の方向性について、釜山広域市が発行する「ダイナミック釜山」の記事をもとに紹介いたします。

■近年の概況

釜山は世界的MICE産業都市として急成長しており、国際会議の開催では世界で15位、アジアでは4位で、大手新聞の見出しにも「相次ぐ行事でにぎわうBEXCO、1年中が祭りのようだ」と書かれるほどです。2013年は、展示会、会議、各種イベントに至るまで1052件の多彩な行事で賑わいました。とくに、国際会議の分野における成果が過去最大かつ顕著で、展示と会議を融合させた行事も多く、釜山の主要な戦略産業である鉄道物流、水産貿易、シルバー分野の展示会も30%程度増加しました。また、2014年においても「国際モーターショー」「ICT(情報通信技術オリンピック)」「ITU(国際電気通信連合全権会議)」をはじめ、1200件あまりの様々なイベントが予定されています。

■キーワードは「地域との共存共栄」



BEXCO オ・ソンゲン代表理事
(写真提供：BEXCO)

オ・ソンゲン代表理事は、BEXCOをアジア最高の展示コンベンションハブに育てることを目標としていますが、それだけではなく、釜山MICE産業と共に全体のパイを広げることに特に関心が高く、彼の経営計画にも、このような思いが多分に盛り込まれています。例えば、地元の展示企画会社のインキュベーション^(※)事業を通じ、地元企業との共存共栄を図っています。また、アートショー釜山2014の開催に合わせ、釜山広域市の主要施策の一つである、地域社会の様々な芸術活動を紹介して結びつけるアートハンド

プログラムの一環として「山腹道路プロジェクト企画展」を同時開催し、相乗効果を高めています。そして、釜山社会と業界内部との、隅々にわたるコミュニケーションを図る日々を送り、常に笑顔を決やさず接しています。それと同時に、MICE産業を真の釜山の中核産業として育成するためには「長期的・体系的なインフラを構築する計画の立案」「各地域を特化させる総合的な対策」が必要であると考え、2020年、釜山が世界MICE十大都市として名実ともに成長するよう日々邁進しています。



BEXCO

写真右手が第1展示場の建物で背後には約26,000㎡の展示場を備え幅は200mを超える巨大施設
写真左手が最大約4,000人の観覧席を備える大講堂